

成果指標				
成果指標	今年度の利用者数÷過去2年間平均利用者数＝成果指標			
指標設定の考え方	県施設公園の利用者を事業の評価と考え、指標とした。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標22年度
目 標	1.01	1.01	1.01	0
実 績	1.17	1.09	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	0			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	県施設のストックマネジメント化を行っていくことは、喫緊の課題であるがこれを行う第一歩が長寿命化計画の策定であると考えられる。このことは、県及び市等における施設の計画的な維持管理の方針を明確化、共有するとともに、施設ごとに管理方針、長寿命化対策の予定時期・内容等を最も低廉なコストで実施できるよう整理していかなければならない。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題